自衛隊の現場

名寄（北海道）

第3即応機動連隊で修了式
仲間と共に成長する新自衛官

修了式記念撮影

陸上自衛隊第3即応機動連隊（連隊長・藤田明大1等陸佐）新隊員教育隊（教育隊長・小島卓2等陸佐）は9月15日、名寄駐屯地において「令和6年度新隊員特技課程および一般陸曹候補生課程後期教育」の修了式を行いました。

今年7月、北海道旭川駐屯地と神奈川県武山駐屯地から集まった新隊員たちは、名寄駐屯地で一人前の自衛官を目指し、厳しい訓練に励んできました。

修了式前には、小銃返還式と区隊旗返還式が行われ、何度も練習を重ねて手に馴染んだ小銃を教育隊長へ、そして区隊の象徴である区隊旗を区隊長（平間克己2等陸尉）へ返還しました。

新隊員たちは2カ月前の教育開始式で見せた緊張感から一転し、自信を持って修了式に臨みました。

新隊員代表の伊藤弥洋2等陸士が教育修了を力強く申告し、藤田連隊長からは「逞しく成長した姿は頼もしい。仲間と共に、失敗を恐れずに挑戦し続けることが大切だ」との激励が贈られました。

また、名寄地方自衛隊協力会会長の加藤剛士名寄市長からも「堂々たる姿に感動した。今後も成長を期待している」との励ましの言葉がありました。

修了式後の記念会食では、新隊員が「厳しい訓練も同期と支え合って乗り越えた。中隊配置後も頑張りたい」と抱負を述べ、即応機動連隊の一員としての新たな決意を示しました。

新隊員たちはそれぞれの中隊に配置され、自衛官としての一歩を踏み出します。

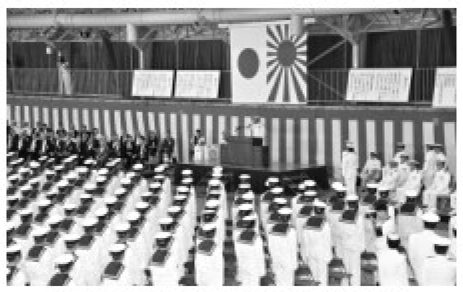
佐世保（長崎県）

佐世保教育隊で修業式
一般海曹候補生と練習員、成長の証し

佐世保教育隊（司令・井上貴嗣1等海佐）は8月27日、第21期一般海曹候補生課程、第384期練習員課程および第71期練習員課程（女性）の修業式を、佐世保地方総監（俵千城海将）の臨席の下、佐世保市副市長の田中英隆氏ら多数の来賓を迎えて厳粛に挙行しました。

井上司令は「約4カ月半にわたり、海上自衛官としての態度や、部隊勤務に必要な基礎を身につけた皆さんが頼もしく感じられる。自信を持って実習に臨み、服務の宣誓を胸に、日々の鍛練を怠らずに過ごしてほしい」と激励しました。

佐世保地方総監の俵海将は「自己の職責を果たすこと」と「使命感と覚悟を持つこと」という2つの指針を伝え、これから部隊に向かう修業生に対し「国民の安心安全を守る使命感を胸に、自分の役割を果たしてほしい」と訓示しました。


多数の来賓を迎え挙行された修了式

堂々の行進を見せ、各任地へ

修業生274人は、約4カ月半にわたる教育訓練を通じて海上自衛官としての基礎知識と技能を修得し、心・技・体を鍛えました。

入隊当初は体力に不安を感じる者や団体生活に馴染めない者もいましたが、同期同士で励まし合い、困難を乗り越えてこの日を迎えました。

修業式後、修業生たちは来賓やご家族、多くの職員に見送られながら堂々と行進し、それぞれ全国の配属先へと旅立ちました。

練馬（東京都）

空の守りを強化！　要撃訓練成功
SAMとHMGによる対空実射訓練

近・短SAMの対空実射

陸上自衛隊第1師団は7月27日から8月3日の間、静内対空射場（北海道）で師団等対空実射訓練を行い、第1高射特科大隊（1高大）による81式短距離地対空誘導弾（短SAM）と93式近距離地対空誘導弾（近SAM）の実射訓練を実施しました。

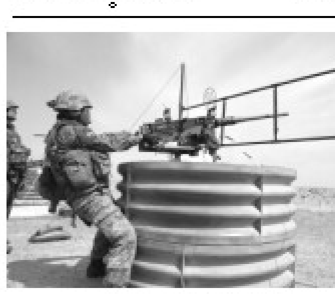
また、9月6日から17日の間、六ヶ所対空射場（青森）で、12・7㎜重機関銃（HMG）の対地・対空実射訓練を行いました。

近・短SAM対空実射

1高大は、年度初めから首都防空の能力向上を目指し、逃げる標的機に対する射撃要領を段階的に演練してきました。今年度の訓練では、小型の新標的機を使用し、逃げる目標に対する実射に挑戦しました。隊員たちは訓練の成果を発揮し、近SAMと短SAMの同時射撃に成功し、要撃を達成しました。

HMG対空実射

対空実射訓練では、師団隷下部隊や東部方面隊直轄部隊の要員が参加しました。訓練を通じて、対空射撃時の射弾誘導や組内連携を学びました。選抜された隊員たちは3人1組で、組長の指揮の下、射手が正確な照準と撃発を行い、目標機1機を撃墜（2発の命中弾）する成果を上げ、訓練は成功裏に終了しました。


目標機1機を撃墜

福島（福島県）

新隊員教育隊の集大成
行進訓練と初のヘリボン攻撃

福島市自衛隊家族会による出迎え

陸上自衛隊第44普通科連隊（連隊長・吉庄明裕1等陸佐）は新隊員教育隊の教育訓練の集大成として、9月11日から12日にかけて「35㎞行進訓練」を実施、13日には新隊員教育隊として初めてヘリボンを含む攻撃訓練を行いました。

35㎞行進訓練では新隊員の徒歩行進能力や体力・気力の向上を目的としました。

11日の夜、福島駐屯地を出発した新隊員たちは背のうを背負い小銃を携行し、福島市特有の高温多湿の中を夜通し行進しました。

汗で上着の色が変わる隊員もいる中で、歯を食いしばり、同期と声を掛け合いながら行進を続けました。

翌朝、夜明けとともに気温が上がる中、約13時間の行進訓練を終え、隊員たちは駐屯地に帰還しました。

駐屯地では、駐屯地音楽隊の演奏に迎えられ、連隊の隊員や福島市自衛隊家族会、防衛モニター、駐屯地モニター、地域の方々に盛大に出迎えられ、連隊長への帰隊報告を行いました。

また、13日には第44普通科連隊の新隊員教育隊として初めてヘリボンによる機動攻撃が実施されました。第6飛行隊のUH－1Jヘリコプターの支援を受け、行進訓練の疲れを感じさせることなく、6波に分かれて福島駐屯地を離陸し、水原演習場（福島市）に向けて速やかに空中機動を行いました。

同演習場に到着後は、班長の指導の下、個人の偽装を実施し、軽火器と迫撃砲の各区隊に分かれて攻撃準備を行いました。

軽火器区隊は、敵陣地への攻撃を任務とし、機動と火力を連携させて前進しました。迫撃砲区隊は、軽火器区隊の前進を支援するため、120㎜迫撃砲および81㎜迫撃砲の射撃準備を迅速に完了させ、敵陣地に対して砲撃を実施しました。

両区隊の連携により目標を奪取し、訓練を終了しました。

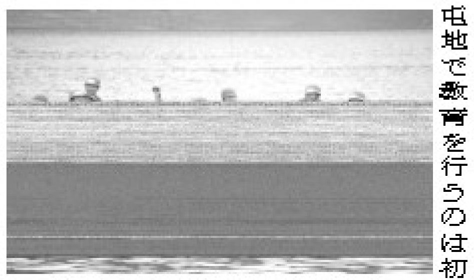
約3カ月間の後期教育で修得した普通科中隊の基本的事項を遺憾なく発揮した彼らの今後の飛躍が楽しみです。

上富良野（北海道）

第14施設群、新隊員特技課程教育を実施
群、初の上富良野駐屯地での教育

陸上自衛隊第14施設群（群長・河端純一1等陸佐）は7月3日から9月13日の間、上富良野駐屯地において新隊員特技課程および一般陸曹候補生課程後期の「施設」教育を実施しました。

今回の教育では、15人の被教育者が参加しました。


南富良野町で実施された渡河訓練

新編から8年目を迎える第14施設群が、上富良野駐屯地で教育を行うのは初めてであり、教育隊長は副群長の竹本2等陸佐、区隊長は山根3等陸尉（第395施設中隊）が務めました。

教育には第12および第13施設群からの支援もあり、女性助教やサポートWACも配置され、万全の体制が整えられました。

厳しい暑さの中での教育内容は、施設基礎作業（土工・木工・植工・連結）や上富良野演習場での爆破訓練、南富良野町での渡河訓練など多岐にわたり、ICT技術に関する研修も行われました。

山根区隊長は「この2カ月間、辛いことも多かったと思うが、楽しかったことも心に留めておいてほしい。今後、困難なことがあれば、同期で助け合って乗り越えてほしい」と新隊員を激励し、それぞれの部隊へ送り出しました。

河端群長は「第14施設群が再編後、初めて本教育を担任し、新たな歴史を創ってくれたことを称賛し、次の任務に向けて頑張ろう」とコメントしました。

第6551回QCサークル関東支部
茨城地区夏季大会で大会賞受賞

受賞した「セステット」のメンバー

令和6年7月5日に水戸市民会館で実施された第6551回QCサークル関東支部茨城地区夏季大会に、航空自衛隊第7航空団を代表して、整備補給群車両器材隊サークル「セステット」が参加し、見事、大会賞を受賞しました。

「セステット」は、工具管理の簡略化をテーマにQCサークル活動を行い、点検時間の大幅な削減に加え、さまざまな副次効果や若手の成長によるサークルレベルのアップなど、多くのものを得ることができました。

大会での発表は、以下の点が高く評価されました。

スローガンの設定

各ステップごとにスローガンを決め、何をするのかを明確にすることでQC活動を着実に実施する工夫があった。

5Sの理解

必要なものと不必要なものを整理し、使用頻度に応じて整頓するなど、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）の考え方をしっかりと理解していた。

QCストーリーの明確さ

QCストーリーに忠実で、分かりやすい内容になっていた。これらの要素が、発表の質を高める要因となりました。

この結果は、本サークルの力はもちろんのこと、サークル活動を支えた職場の力も大きかったことの表れだと思います。

令和6年度第7航空団QCサークル活動成果発表会が、来年1月に計画されています。新たなQCサークル活動を通じて、問題を解決し、職場を活性化するとともに、その成果が「セステット」のように評価されることを期待します。

弘前（青森県）

誇り高き戦い！　師団射撃競技会
第39普通科連隊が総合優勝

優勝看板の奪還を果たす

陸上自衛隊第39普通科連隊（連隊長・董沼文洋1等陸佐）は8月26日から9月5日の間、岩手山演習場で開催された師団射撃競技会に参加しました。

この競技会では、分隊戦闘射撃（攻撃）、狙撃、81㎜迫撃砲射撃、120㎜迫撃砲射撃および至近距離射撃の5種目が行われ、部隊の射撃能力向上、士気の高揚、団結の強化が目的とされました。

連隊は優勝看板の奪還を目指し、本年度初めから各射撃野営地で段階的な練成を行ってきました。

その結果、連隊は3種目で第1位を獲得し、総合優勝を達成、前回の雪辱を果たしました。

各射撃の前には宿営地で出陣式が行われ、連隊長の号令のもとで士気を高め、射撃会場へと前進しました。

連隊はさらなる精強な部隊を目指し、練成に励むことを誓っています。

倶知安（北海道）

第2回予備自衛官招集訓練を実施
北部方面対舟艇対戦車隊が担任

訓練終了時の集合写真

陸上自衛隊北部方面対舟艇対戦車隊（隊長・山口良2等陸佐）は9月27日から10月1日までの間、倶知安駐屯地において、第2回予備自衛官招集訓練を実施しました。訓練には予備1等陸尉から予備陸士長の25歳から64歳まで、計43人の予備自衛官が参加し、体力測定、射撃検定、警備訓練、救急法および野外衛生等が行われました。

予備自衛官の中には倶知安駐屯地で勤務していた隊員もおり、変わらず壮大な羊蹄山を仰ぎつつ昔の思い出話に花を咲かせながら、各種訓練に励んでいました。

予備自衛官からは「教官、助教の熱心なご指導により充実した訓練に参加できたことを心より感謝いたします」「訓練内容がとても充実しており練度の維持・向上に努めることができました」などの感想がありました。

北部方面対舟艇対戦車隊は「引き続き予備自衛官が訓練に集中できる環境を作るとともに、常備と予備が切磋琢磨しながら防衛基盤の育成にまい進していく」としています。

射撃検定

久居（三重県）

第33普連、協同戦闘訓練を実施
検閲に向け繰り返し演練

中隊と連携し戦闘する16式機動戦闘車

陸上自衛隊第33普通科連隊（連隊長・金子洋幸1等陸佐）は、7月下旬から8月上旬にあいば野演習場で諸職種協同戦闘訓練および第3次連隊訓練検閲を実施しました。この訓練では、他職種部隊との連携を重視し、戦闘団の戦い方を演練・検証しました。

各演習後にはAAR（行動後評価）を行い、作戦計画の実効性を向上させました。通信小隊（遠山2等陸尉）と施設作業小隊（奥村3等陸尉）の訓練練度を評価し、進歩を促しました。

各中隊は猛暑の中、地域防御や重要防護施設の防護要領を繰り返し演練しました。また、航空機による部隊輸送や傷病者の後送、対空戦闘、除染作業などの演練も実施されました。連隊長の指導の下、隊員たちは夜間までAARを行い、作戦計画の指揮官の意図を現場で具現化しました。訓練中には第10師団長（酒井陸将）が視察し、隊員たちを激励。士気が高まりました。

通信小隊は約30㎞の有線通信網を構築し、通信機能を確立。施設作業小隊は敵の侵攻を阻止する防御障害を構築し、地雷原の再閉塞を行いました。

この訓練を通じて連隊は団結を強化し、師団訓練検閲に向けた準備を進めています。万全の態勢で本番を迎えることを誓っています。

国分（鹿児島県）

駐屯地家族説明会を実施
カレー喫食や装備体験で交流深める

APCに試乗

陸上自衛隊国分駐屯地（司令・村山正人1等陸佐）は9月15日、「国分駐屯地家族説明会」を開催しました。

まず、村山駐屯地司令のあいさつの後、各担当者が自衛隊の任務や役割、隊員の処遇や福利厚生、家族支援制度などについて分かりやすく説明しました。その後、体験喫食として駐屯地名物の牛すじカレーを隊員と共に楽しく味わいました。

説明会後にはUH－60J体験搭乗、車両装備品の展示、第12普通科連隊が保有するAPCの試乗、レンジャーロープ体験などが行われ、子供たちは各アトラクションを楽しんでいました。

ご家族からは「説明が勉強になった。子供たちも父親の働く姿にかっこいいと感じていた」との声が寄せられました。

この説明会を通じて、自衛隊への理解が深まり、隊員も家族の大切さを再認識する機会となりました。

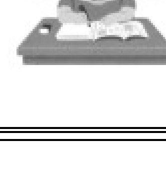
漢字あそび　第22回

問題・読めるかな？

初級
知らないとちょっと恥ずかしい
・思惑：狙いを秘めた思い。「思惑どおり」
・迂遠：回りくどい

中級
意外とやっかい
・氷雨：冷たい雨
・批准：条約を承認すること

上級
自慢できるかな
・閂：門戸を閉め切るための横木、四文字



（解答は、6面に）
（出題・解答・ＬＵＣＫＹ）
※数字：頭の体操はお休みします。

定期購読のご案内
防衛省・自衛隊の様々なトピックスを満載した「朝雲」は、どなたでも購読できます。退官後も部隊や後輩の補職先、活躍ぶりが一目りょう然。お申し込みは下記へ。
税・送料込み　1年間契約 9,900円　半年間契約 5,500円
電話 03・3225・3841
FAX 03・3225・3831
朝雲新聞社
〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町12-20KKビル

令和6年　防衛省・陸上・海上・航空自衛隊
自衛隊記念日
協賛：防衛省関連優良企業　我ら企業も応援します。
がんばろう日本
協力：（公社）自衛隊家族会
制作：（有）防衛企画

F-2 戦闘機
サイバーセキュリティシステム
InteRSePT
SH-60K 哨戒ヘリコプタ
12SSM 12式地対艦誘導弾
16式機動戦闘車
自律型水中航走式機雷探知機 OZZ-5
潜水艦「たいげい」
護衛艦「もがみ」
H-IIA ロケット
MOVE THE WORLD FORW>RD
MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

三菱重工
三菱重工業株式会社　www.mhi.com/jp

DUNLOP
ECO FIRST 環境大臣認定 エコ・ファースト企業
株式会社ダンロップタイヤ
〒135-6005 東京都江東区豊洲3丁目3番3号 豊洲センタービル
TEL：03-5546-0152 FAX：03-5546-0143
http://tyre.dunlop.co.jp/
住友ゴムグループ

IHI
株式会社 IHI エアロスペース
本社／〒370-2398 群馬県富岡市藤木 900 番地
TEL 0274-62-4123　FAX 0274-62-7711
東京事業所／〒135-0061 東京都江東区豊洲3丁目1番1号（豊洲IHIビル）
TEL 03-6204-8000　FAX 03-6204-8810